

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

# 異素材と融合、江戸切子の新境地

山田 真照 東京／江戸切子職人



スーパーバイザー  
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



1月17日 プレゼンテーションにて



展示ブースでバイヤーと商談中

エリア・コンサルティングにて  
左:山田さん、右:生駒氏

山田 真照  
東京／江戸切子職人

1973年東京生まれ。父輝雄氏に師事し江戸切子の道に入る。以降、東京カットグラス工業協同組合青年部に入会し、グループ展や作品展などに出演を始める。自身の「寿盃松竹梅」がすみだブランドやワンドー500などに認定され、ミラノ万博日本館への土産として使用される。東京都チャレンジ大賞優秀賞、ほか多数受賞。都立高校民間講師。現在、墨田区伝統工芸保存会会員、江戸切子協同組合員。

LEXUS  
NEW  
TAKUMI  
PROJECT

江戸切子職人として25年のキャリアを持つ山田さんは、これまで伝統的な幾何学文様を組み合わせた斬新なデザインのグラスや、技術の粹を尽くした微細なカットが美しいグラスを多数制作してきた。

「僕の工房のある墨田区は職人が多い町。様々な伝統工芸職人が集まる『伝統工芸保存会』は昨年40周年を迎えました。僕もこの会に参加し、異業種の職人たちから日々刺激を受けています。今回異素材との組み合いで挑戦したのは、この地域性を生かしたコラボレーションをしたいと 생각했습니다。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。東京都選出の匠、江戸切子職人の山田真照さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

輝くのが江戸切子の魅力。宝石にも負けないこの輝きと木のぬくもりを融合させたアクセサリーも制作し、江戸切子の新しい世界を拓いていきたい」と山田さんは意欲に燃えている。

「カット面が光を取り込んで透明なガラスがキラキラと四季折々の動植物を描き出した作品を作つていいといふ。『花切子』の技術を大切にして、工房にて、切子の柄を一工程ずつ削っていく

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親である小山薰堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家／東京大学教授)、生駒芳子氏(ファッショングジャーナリスト／アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポート・メンバーに発足。

昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦

が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、

ロックフェラー家主催のチャリ

ティイベントへ出品されるなど

注目を集め、匠自身もTVや

webメディアへの掲載など目

覚ましい活躍を見せている。

2年目となつた今年は、全国

47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギ

ヤラリー高輪で行われたキッ

クオフ・セッションを経て、匠は自身

に、サポートメンバーが実際に

工房を訪ね、途中経過のプロダ

クトをうけて行うエリア・コン

サルティングを経て、匠は自身

に、サポートメンバーが実際に

工房を訪ね、途中経過のプロダ

クトをうけて行うエリア・コン

サルティングを絏て、匠は自身

に、サポートメンバーが実際に

工房を訪ね、途中経過のプロダ

クトをうけて行うエリア・コン

サルティングを絏て、匠は自身

に、サポートメンバーが実際に

工房を訪ね、途中経過のプロダ

クトをうけて行うエリア・コン

サルティングを絏て、匠は自身

に、サポートメンバーが実際に

工房を訪ね、途中経過のプロダ

クトをうけて行うエリア・コン